

## 旅客船

### ビジネスプロジェクター 導入事例

## 株式会社フェリーさんふらわあ

使用機種: EB-L30000U+ELPLX03、EB-L1755U+ELPLW06

### 用途: 船内でのプロジェクションマッピング

#### 株式会社フェリーさんふらわあ

所在地: 大阪府大阪市住之江区南港北2-1-10 O's(オス)棟 北館6階605  
最寄駅: Osaka Metro ニュートラム トレードセンター前駅  
ホームページ: <https://www.ferry-sunflower.co.jp>



株式会社フェリーさんふらわあは、2023年に大阪/別府航路の新造船として「さんふらわあ くれない・むらさき」という歴史的な名を持つ2隻を就航させた。その船内のアトリウムでは、演出としてプロジェクションマッピングが行われるが、これに2台のエプソン製プロジェクターを採用。そこで同社の大西康人さんと、施工などを担当した株式会社タケナカの原 真一さんに、導入の経緯や効果について伺った。



型番: EB-L30000U

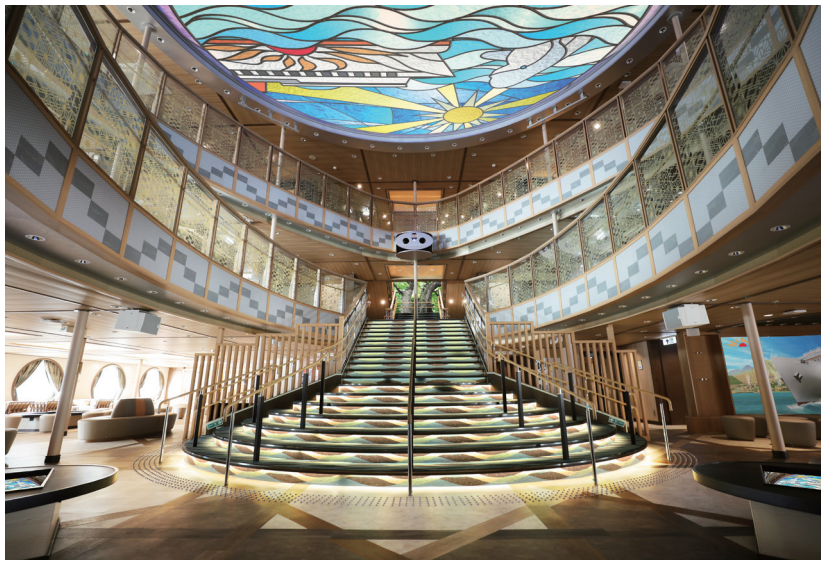
価格: オープンプライス  
明るさ: 30,000lm  
スクリーン解像度: 4K(注)

(注)シフト技術を採用した4K相当の解像度となります。



型番: EB-L1755U

価格: オープンプライス  
明るさ: 15,000lm  
スクリーン解像度: 4K(注)



#### Before 導入課題

- 船旅が持つ非日常感の演出に映像を活用したい
- 船内のデザインを崩さずに映像を投写したい
- 広い天井に1台のプロジェクターで明るく投写したい

#### After 導入効果

- プロジェクションマッピングで非日常感を演出
- 投写面などへの細工が必要なく、デザインに影響しない
- 30,000lm+超短焦点レンズで、明るく広範囲を投写可能

「さんふらわあ くれない・むらさき」のアトリウムの様子。階段部分が3フロア分の吹き抜け構造となっており、その天井部分にエプソンのEB-L30000Uを用いたプロジェクションマッピングが投写される。3階部分の一部には透明スクリーンも用意され、階段を上って見渡すと、舞台などのアリーナ席にいるかのような臨場感のある映像体験ができる。

## 「プロジェクションマッピングで、船旅ならではの非日常感を演出」

### 導入背景

### 最新の「カジュアルクルーズ」には欠かせない映像演出

「くれない」は1912年就航の「紅丸」、「むらさき」は1921年就航の「紫丸」以来の歴史を持った船名。しかも、2代目「紅丸」で石炭からディーゼルエンジンへ転換したり、3代目で豪華な内装を取り入れたりするなど、当時の最新の技術や装備が投入されてきました。

この度の「さんふらわあ くれない・むらさき」は、国内初のLNG燃料フェリーであり、環境に優しく、その名にふさわしいものとなっています。内装も、～復活ときずな(KIZUNA)～をコンセプトに、親子3世代が家族のきずなを再確認できる場を提供したいとの思いから、長距離フェリー初のコネクティングルームを設置するなどの工夫がされています。

船内でのプロジェクションマッピングは、大阪/志布志(鹿児島)航路

に就航している「さんふらわあ さつま・きりしま」から導入しており、それを目当ての1つとして乗船されるお客様がいるなど、好評を博しています。そうしたことから、船旅という非日常の空間を気軽に楽しめる「カジュアルクルーズ」の演出の1つとして、プロジェクションマッピングは非常に効果的だと考えており、本船でも導入を決定しました。

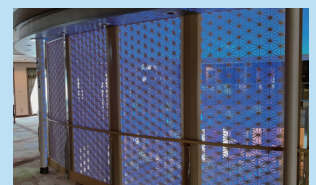
### LEDより消費電力量が少ないのもメリット

船内デザインを担当された、有限会社フラックス・デザイン代表の渡辺友之さんに、テーマなどについて伺いました。

本船は家族で利用することを想定しつつ、モダンで別世界観のあるものになりました。デザインは、大分・別府をイメージして「楠」をテーマにしています。

アトリウムは階段部分を生かし、プロジェクションマッピングを見上げたり、場合によっては腰掛けたりしながら、楽しめる空間を目指しました。とはいえ、天井を見続けるだけでは辛いので、3階部分にスクリーンを設けるなどの工夫もしています。

プロジェクターはLEDに比べて消費電力量が少なく、デザインの自由度が高いのもメリットだと感じます。



3階部分に設置のスクリーンには、透明スクリーンを採用。その裏となる3階の通路側からは、組子細工越しに映像の光が透けて見える。これも、別世界観を演出する工夫の1つだ。



株式会社フェリーさんふらわあ  
旅客営業部 旅客営業部長  
大西康人さん



株式会社タケナカ 大阪本社  
営業本部 アカウントプロデュース部チーフ  
原 真一さん

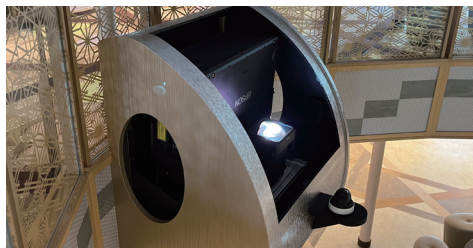
選定理由 超短焦点ゼロオフセットレンズにより、広い天井全体に明るく投写できました

機材選定には、ゼロオフセットの超短焦点レンズの有無が大きく影響しています。初期には床から投写する案もあったのですが、アトリウムのスペースが狭くなってしまったり、画面の一部が欠けてしまったりという問題がありました。

そのため、壁面からの投写にできないか検討したところ、超短焦点ゼロ

オフセットレンズを組み合わせることで天井全体に投写できることがわかったため、EB-L30000UIにこれを組み合わせることにしました。

船内で超短焦点レンズを使用するため、揺れや振動の影響が懸念されていましたが、造船所からのアドバイスなどをいただきつつ、専用の金具などを製作。揺れや振動に強く、精度も保てる設計ができました。



EB-L30000UIに超短焦点レンズを装着した状態で縦置きし、2階の位置から天井に向けて投写。広い天井全体に明るく映像を投写できる。



EB-L30000UIに装着された超短焦点レンズの様子。構造上、振動を拾いやすいが、しっかり固定され映像に影響することはない。



EB-L1755UIは短焦点レンズを装着した状態で設置され、スクリーンに投写。場のデザインに合ったケースに収められている。

導入効果 船内のデザインを生かしつつ迫力のある映像演出ができ、お客様からも好評

LNG船ということもあり、船内は従来に比べて非常に静かです。それもあって、数多くのお客様がプロジェクションマッピングをゆったりと楽しんでいます。瀬戸内海を通る航路では初めてのプロジェクションマッピングですが、常連のお客様からも驚きの声が上がっていました。SNSでも好意的な反応が多く、販売面も好調です。

プロジェクションマッピングなので、船内のデザインを崩さずに映像を映し



3階部分に設置の透明スクリーン。スクリーン部に組子構造が配されているが、映像に違和感はない。

し出せるのも魅力です。映像を映していないときの違和感がない一方で、映像を映すと十分な明るさと色再現ができ、満足度の高い仕上がりでインパクトのある映像表現ができています。

プロジェクターは画面の大きさや明るさに対して消費電力が少なく、LNG燃料船である本船のクリーンなイメージに合っていると思います。



投写される映像コンテンツは、別府の観光名所を紹介するものなどが複数用意され、船内にいながらして観光気分を味わえる(写真・左)。ドローンの映像で船や船内の様子を紹介するコンテンツも制作。乗客が過ごすスペースはもちろん、普段は入れないブリッジや機関室なども紹介される。映像には数多くのスタッフも登場するが、お客様だけでなくスタッフも映像を見て感動していたという(同・右)。

今後の展望 「カジュアルクルーズ」の気軽なエンターテインメントとして活用したい

フェリーさんふらわあでは、ドレスコードがあったり、費用が非常に高かったりするクルーズ船ではなく、もっと気軽に非日常体験としての船旅が楽しめる「カジュアルクルーズ」を目指しています。それには、船内で気軽に楽しめるエンターテインメントとしてのプロジェクションマッピングも重要な要素だと考えています。

そのため、コンテンツの数を増やして行くことはもちろんですが、現在

実施している、「星空教室」や音楽イベントにも応用することができたら面白いのではないかと感じます。

このほか、さんふらわあでは、自治体との連携コラボレーションイベントなどを通じて、新たな人流を生み出し、地域の創生に貢献することも目指しています。今後、これらにもプロジェクターや、プロジェクションマッピングを活用できるのではないかと期待しています。

EB-L30000U				EB-L1755U						
導入のポイント機能		全白	30,000lm	超短焦点 ゼロ オフセット レンズ	スクリーン 解像度 4K <sup>(注)</sup>		全白	15,000lm	短焦点 レンズ	スクリーン 解像度 4K <sup>(注)</sup>
		カラー	30,000lm				カラー	15,000lm		
3LCD方式ならではの 色再現性と明るいカラー				短い投写距離で 大画面		(注) シフト技術を採用した 4K相当の解像度となります。				
3LCD方式ならではの 色再現性と明るいカラー				短い投写距離で 大画面		(注) シフト技術を採用した 4K相当の解像度となります。				